

日本政府ニ於テ承知ノ答ナリ
沿黒竜政府ノ事実上ノ支配下ニ在ル土地及財産ニ関シ一切
ノ協定ヲ為サントスルハ遺憾ナカラ日本政府ハ或種ノ手段
ニ依リ沿黒竜政府ヲシテ有害ナル協約ヲ承認セシメ且之ニ
服從セシメントスルモノナリト思量セサルヲ得ス
按スルニ日本軍ノ沿海州駐屯ノ目的ハ地方ノ平和並秩序ノ

維持ニアルヘキ筈ナルニ前記事態ニ鑑ミ日本政府ハ其ノ真意
ニ付疑惑ヲ感スルモノナリ孰レニセヨ沿黒竜政府ハ一意日
本政府トノ親善関係ノ確保ニ努力中ナルニ上記ノ如キ日本
政府ノ措置ハ之ニ障碍ヲ及ホスモノト認メサルヲ得ス
右ニ関シ貴国政府ニ御伝達ヲ請フ

事項一七 「シベリア」出兵關係一件

附 米国軍艦機関長「ラングドン」射撃事件

七六二 一月二十二日

在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東共和国外相ヨリ内田外相宛日本軍ノ西比

利亜撤退等ニ関スル提案ノ覚書受領ノ件

第三七号

(一月二十二日接受)

一月二十一日「ツェトリン」来訪左記要旨ノ閣下宛「クラ
スノシチヨコフ」^(註)発覚書ヲ手交セリ委細郵報

今ヤ極東露領ノ統一完成シ共和国ニ於テハ外国人亦露国臣
民ト同様生命財産完全ナルヲ得タリ日本軍ノ駐屯ハ不当ナ
ルノミナラス却テ害アリ此際両国平和關係ヲ作ル為日本軍
憲ガ共和国ノ内政ニ絶対ノ干渉ノ主義ヲ取ラルコト及撤
兵ノ期日ヲ定メラルコト必要ナリト思考ス尙共和国内ニ
ハ現ニ日本外交代表者存セザルニ顧ミ相互主義ニ基キ速ニ
政治經濟關係ヲ結ブノ目的ヲ以テ日本政府側ガ代表機關ヲ
東京ニ於テ受ケラレンコトヲ希望スト云フヲ主意トシ右
(不明)ノ間日本軍ハ依然強力ヲ以テ共和国ノ領土ヲ占領

一七 「シベリア」出兵關係一件 七六二 七六三

シ是ニ依リ被占領地ニ於ケル人民ノ生活ヲシテ堪ユ可カラ
サルモノタラシム等ノ語ヲ用ヒ盛ニ日本軍ヲ攻撃シ居レリ
註 菊池政務部長接受ノ覚書ハ後掲仮訳文(七九五文書)ノ原文
(英文)ト同文ナリ

七六三

三月三日 極東共和国外務大臣ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍ノ西比利亜撤退地域ヘノ再進軍ニ付極

東共和国政府ヨリ抗議ノ件

(三月八日接受)

地方官ノ報告ニ依レハ日本軍ハ所定ノ三十キロメートル地
帯ノ境域ヲ越エテ進軍シ本年二月二十三日「エフゲーニエ
フカ」駅ノ東方六十露里ニ位置スル「ヤーコヴレフカ」村
同村ノ東五露里ニ在ル「ボクロフカ」村及「アヌーシメイ
」村ト「ヤーコヴレフカ」村トノ中間ニ在ル「スイソソ
エフカ」村ヲ占領セリ斯ノ如キ日本軍ノ移駐ハ何等ノ理由
ナクシテ事態ヲ紛糾セシムルモノナリ日本出征軍司令官大

七八一

井大将ハ千九百二十年五月十一日ノ宣言書ニ於テ「今ヤ『チェック、スローバック』軍ノ転送終了セントスルニ当リ極東露領治安定スルニ於テハ余ハ喜ンテ兵ヲ撤スヘキヲ明言シテ憚ラサルナリ」ト云ヒ又同宣言書中日本軍ハ極東露領ニシテ自治行政地域ヲ形成シ輿望ニ副フヘキ政治ノ実現セラルルコトハ露国人民ト共ニ満腔ノ誠意ヲ以テ之ヲ歓迎スルコトノ意ヲ強ク述ヘ更ニ日本軍ハ「絃上ノ如キ政情ノ出現ヲ保証セラレ事態安定セラルルニ於テハ即チ撤兵ノ時期ニ到達セルコトヲ悦フモノナリ」ト云ヘリ余ハ以上記述セル所ハ畜ニ日本軍ノ希望スル所ナルノミナラス我政府及国民ノ切望スル所ナルコトハ毫モ疑ハサル所ナリ右ノ時期ハ日本政府ノ見解ニ依レハ既ニ久シキ以前ニ到来セリ何トナレハ千九百二十年七月三日ノ宣言ニ於テ同政府ハ後貝加爾撤兵ニ関シテ声明シ出征軍司令官大井大将ハ該宣言書ニ基キ九月十八日告示シテ「今ヤ哈府附近ノ政情安定ニ向ハントスルニ依リ日本軍隊ヲ同方面ヨリ撤去スヘキヲ茲ニ宣言ス而シテ本職ハ此機会ニ於テ速ニ極東露領各政權ノ統一成就シ之ニ依リテ極東露領民衆ノ幸福安寧ヲ増進シ併セテ日露両国民ノ親善關係ノ一層鞏固ナランコトヲ熱望シテ已マサルナリ」ト云ヒタレハナリ

極東露領ニ於ケル全露国民ノ代表者カ憲法會議ニ於テ極東共和国ノ建設ニ全力ヲ傾注セル時露領極東統一事業カ完成セル時日本軍カ撤退セル各地方ニ秩序ト平和カ保タル時ニ際シテ既ニ嚴然タル数回ノ宣言ニ依リ一度撤兵シタル地方ヲ新ニ日本軍ニ依テ占領セラルルハ日本政府並ニ軍憲カ発セル数回ノ宣言ニ全ク背反スル不法行為ナリ特ニ日本軍ノ此行動ハ同時ニ得テ知レヌ人々ニ於テ沿海州内ニ「パルチザン」カ跳梁スル準備ヲ為スモノノ如ク又極東共和国カ侵略的軍事行動ヲ起スモノナリトシテ故ニ陰險ナル流言蜚語ヲ放ツニ至リテハ形勢更ニ不穩ナリト云ハサルヘカラス極東共和国政府ハ一再ナラス声明シ今回亦新タニ決シテ斯ノ如キ侵略的計画ヲ有セス又日本軍ニ對シテ陰謀ヲ有セサル旨ヲ公然宣言セリ極東政府ハ外国干涉ヲ平和的ニ回避シ且極東露領ノ露国人ト日本国民トノ間ニ最モ友好的關係ヲ齎サントシ過去ニ於テ全力ヲ拏ケテ努力シ現在ニ於テモ努力シツツアルナリ然ルニ極東政府カ露国領土内ニ於ケル日本軍ノ敵對行動ニ関スル悲惨ナル回想ヲ国民ノ記憶ヨリ芟除セントスル努力ハ若シ日本軍カ既ニ撤退セル地方ヘ再ヒ進軍セントスル政策ヲ継続スルニ於テハ遺憾ナカラ何等ノ功ヲ奏セス国民ハ益々神経ヲ悩マスヘキコトヲ声明スル

ノ余儀ナキニ至ルヘシ極東共和国政府ハ極東ノ統一ト民主的國家ノ樹立ニ反對シ却テ之ヲ破壊セントスル日本軍ノ此種ノ行動ニ對シテ抗議スルコトヲ以テ自己ノ職責ナリト認ム

千九百二十一年三月三日 アー、クラスノシチヨコフ(署名)

註 右ハ極東共和国外務省特派員「ツェトリン」ニ依リ露語ノ儘

三月七日浦潮ヨリ日本外務大臣宛電送セラレタルモノノ仮訳

文ナリ

七六四 三月八日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍撤退問題ニ付極東共和国政府ヨリ交渉

開始方提議ノ件

第一三二号 (三月八日接受)

三月七日チタ外務次官「コゼウニコフ」来訪左ノ通申出タリ極東共和国ハ日本軍隊ガ一日モ早く撤退センコトヲ熱望ス日本政府ニシテ撤兵ノ交換条件トシテ何等カ具體的ニ申出デラルレバ我が方ニ於テ研究応諾ノ能否ヲ決スベシ又本件交渉ノ内容ハ國際禮讓ニ從ヒ嚴重ニ秘スベキコトヲ声明ス余ハ予備協定ニ署名スルノ權限ヲ「チタ」政府ヨリ委

一七「シベリア」出兵關係一件 七六四 七六五

任セラレ居レリ云々 右ニ對シ本官ハ単ニ申出ノ趣ハ本省ニ取次グベシト挨拶スルニ止メ置ケリ

尙「コ」ハ今回来浦ノ使命ハ主トシテ外交上ノ問題ニ付本官ト交渉ヲ開始セントスルニアリ故ニ本官ニ於テ何等交渉案件無キニ於テハ直グサマ「チタ」ニ歸ルノ外無シト語り居タリ

七六五 五月二十七日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道ノ占領ヲ図ル日本軍ノ策動ニ關スル

報道ニ付米國國務長官非公式ニ我方ノ注意ヲ

求メタルニ依リ請訓ノ件

第二九九号 (五月二十九日接受)

五月二十七日國務長官ノ招ニ応ジテ往訪シタル処同官ハ今回接手セル報道ニ依ルニ北滿洲ニ於ケル日本軍事官憲ハ露国守旧分子(reactionary)ニ声援ヲ与ヘテ紛擾ヲ起サシメ其機ニ乘ジテ東支鐵道ヲ占領センコトヲ計画ナルガ此ノ目的ノタメ近日滿洲里及哈爾濱ニ於テ行動ヲ開始スベシトアリ自分ハ素ヨリ之ヲ信ズルモノニ非スト難モ右ノ報道アリタル事実ハ腹藏無ク日本政府ニ内報シ置クコト兩國政

七八三

府關係ノタメニ有益ナルベシト思考シ茲ニ非公式且内密ニ本使ニ注意ヲ求メントスル次第ナル旨ヲ陳ベタリ

本使ハ所謂日本軍事官憲ノ計画ナルモノガ何等カ具体的ニ事實トシテ現レタル形跡アリヤト問ヒタルニ「ヒューズ」

ハ其ノ接手セル報道中ニハ毫モ斯ノ如キ形跡ニ言及セルモノ無ク單ニ近々何等カノ行動開始セラルベシトノ漠然タル予測ヲ掲グルニ止ルモ元來東支鐵道ノ現状ヲ變更スルノ問題ハ米國トシテモ利害ヲ感スル所ナルガ故ニ万一ノ誤解ヲ避ケンガ為一片ノ風説ト難モ米國政府ノ得タル報道ハ之ヲ打開ケテ日本政府ノ考量ニ供セントスル趣旨ナリト答ヘタリ本使ハ國務長官ガ淡白ニ其ノ報道ヲ内示セラレタルヲ謝シ右ハ絶エズ支那及西比利亞方面ヨリ伝ハル各種捏造説ノ一ニ過キスシテ何等重キヲ置クニ足ラスト信スルモ日本ニ對スル猜疑ノ如何ニ深キカラ示スニ於テ本使ノ興味ヲ感ズル処ナリト陳ベタルニ「ヒューズ」ハ自ラ右風説ヲ信ズルモノニ非ザルコトヲ繰返セリ

同官ハ本件報道ノ出所ヲ明言セザリシモ滿洲若クハ西比利亞方面ヨリ著セル電報ニ基クモノト察セラル何レノ場合ニ於テモ其ノ無根ナルコトヲ明ニセンガ為日本政府ノ意見ト

モ徹底のニ之ヲ援助スル方針ナリヤ否ヤ自分トシテハ成ルヘク日本ト同一方針ノ下ニ行動シ以テ東三省ノ治安ヲ図ラントス

四、吉会鐵道ニ関スル一件書類ハ孫吉林督軍ト相談ノ上全部北京ヨリ之ヲ当地ニ取寄セ目下研究調査中ナルカ是ハ何処迄モ地方ニ於テ解決スヘキモノニシテ果シテ(脱)行ハルルニ於テハ世論ノ反對ヲ惹起スヘキ虞ナシト思考ス

五、蒙古征伐ノ実行ハ單ニ蒙古ニ對スル善後処置ヲ講スルコトニアリテ決シテ戦争スル必要ナシ現ニ内外蒙古各王公ヲ当地ニ招待シテ彼等ヲ懷柔シタレハ余自ラ出馬スルニ於テハ解決容易ナルヘク現在庫倫ニハ二名ノ活仏アリ一名ハ西藏ヨリ來レル者ニシテ他ノ一名ハ庫倫地方ノ人物ナリ依テ自分ノ意見トシテハ西藏ヨリ來レル活仏ヲ西藏ニ送還スルカ或ハ之ヲ北京ニ拉致シテ優遇シ今後彼ヲシテ再ヒ庫倫ニ歸來セシメサル様取計ハント思考ス

征蒙ノ順序ハ本月二十日過キ余自ラ滿鉄及東支鐵道列車ニテ海拉爾滿洲里ニ到リ更ニ陸路庫倫ニ向ヒ同地ニテ一切ヲ処置シタル後自動車ニテ北京ニ出ツル予定ナルカ前述ノ通り蒙古人トハ殆ト戦争ノ必要ナキモ目下過激派カ占領シ居

シテ更ニ國務長官ニ何分ノ挨拶ヲナスノ必要アリト思考スルニ付挨拶振リニ関シ至急御回示ヲ請フ
在歐米各大公使ニ転電セリ

七六六 七月六日 在奉天吉原總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

西比利亞トノ關係、對蒙措置、對日態度等ニ
付為シタル張作霖ノ直話報告ノ件

第二三一号 (七月七日接受)

七月五日張巡閱使ノ本官ニ直話セル要領左ノ通り
一、過激派齊多政府外務次官「コゼウニコフ」四日來訪セルニ付面会シタル処彼ハ支那側トノ通商貿易ヲ切望スル旨申出テ尙蒙古征伐ノ途次自分カ滿洲里ニ到着スル際同地ニテ齊多政府外務總長ト会見セラレタキ旨ヲモ懇望セリ
二、「スチーヴンス」歸來後哈爾濱ヲ以テ各国共同居留地ト為サントスルノ議アリ是ハ支那ノ立場ヨリ見テ由々數大問題ナルノミナラス日本ノ利害關係モ尠カラスト思考セラ
ルルニ付日本政府ニ於テモ慎重考量セラレンコトヲ希望ス
三、「セメノフ」ニ對スル日本政府ノ態度ハ自分ハ能ク之ヲ了解シ居レルモ浦潮現政府ニ對シ日本ハ更ニ出兵シテ迄

ル我方ノ領土恰克圖ハ或ハ武力ヲ以テ之ヲ回復スルノ已ムナキニ至ルヘシ

六、自分カ蒙古ヲ懷柔シ得タル後ハ支那ノ中央政局ニ對スル立場モ極メテ好都合トナルヘク亦以テ大ニ日本ニ酬ユル所アラントス然ルニ一部日本人間ニハ張作霖ヲシテ其ノ勢力ヲ増加セシムルコトハ日本ノ為却テ不利益ナリトノ説ヲ為スモノアルコトニテ是ハ甚シク余カ素志ニ反ス余ハ誠心誠意兩國ノ為ニ計リテ大局上決シテ日本ノ不利益ヲ企図シタルコトナシ然ルニ今後若シ日本カ余ノ中央政局ニ乘リ出スヲ待チ余ヲ遇スルニ第二ノ袁世凱ヲ以テセハ是レ余ノ誠意カ日本ニ通セサルニ依ル誤解ニシテ兩國ノ為ニ取ラサル所ナリ現ニ從來領事館ヨリ交渉懸案中ナリシ大倉男爵ト余トノ白音太拉ニ於ケル農業合併事業モ之ヲ復活セシムルニ決シ又撫順ヨリ奉天ニ電力ヲ送ルヘキ送電合併事業モ既ニ之ヲ許可セリ鴨綠江採木公司カ奉天省内撫松、安図兩県ノ森林ヲ合併セントスルコトモ財政厅长ニ命シテ便宜取計ヲハシムルコトト為シ置ケリ此ノ如ク余ハ貴館トノ交渉事件ニ對シ殆ト全部貴館ノ希望ヲ容レ居ル次第ナレハ其辺ノ事情モ日本政府ヘ可然御伝ヘ置キヲ請フ

在支公使へ郵送セリ

七六七 七月二十二日 在浦潮松島政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

赤軍バルチザンノ活動活発化シ交通杜絶ノ虞
アル旨スパスカヤ出張中ノ郡司副領事報告ノ
件

第三九八号 (七月二十二日接受)

郡司ヨリ左ノ通り

第一九号

本月上旬ヨリ当地「ニ」市間ノ鉄道沿線ニ赤軍「バルチザン」出沒シ時ニ列車ヲ狙撃シタルコトアリシカ最近ニ至リテ彼等ノ活動漸ク旺盛トナリ昨二十日ヨリ本日ニ亘リ浦潮ヲ距ル百六十九露里百九十四露里(「ムチナヤ」「マンソフカ」兩駅間)ノ橋梁モ焼却又ハ爆破セルカ情報ニ依レハ彼等赤軍ハ「ハ」府方面ト連絡ヲ有シ鉄道ヲ破壊シテ交通ヲ杜絶シ沿線各地一斉ニ「バルチザン」ヲ蜂起セシメ臨時政府ヲ脅威スルト同時ニ我軍ヲモ苦シメンコトヲ計画シ居ルモノノ如ク本二十一日ニハ当地「ニ」市ニ向ケ郵便車ヲ出発セシメタルカ今後何時交通杜絶スルヤ計リ難シ尙本日烏

次テ大使ハ「チタ」政府ヨリ日本ニ向テ北樺太讓渡ノ提議ヲ為シタリトノコトハ事実ナリヤト尋ネタルニ依リ大臣ハ新聞紙ニハ斯カル報道アルモ何等確ナル提議アルニアラズ假令先方ヨリ提議アリタル場合ニ於テモ其如何ナル意思ニ出デタルモノナリヤ充分考究ノ必要アルベキ旨答ヘタル処大使ハ「コルチャック」モ右讓渡ニハ異存ナカリシモノノ如ク先年西比利亜ニテ同人ニ会见シタル際同人ハ露国ノ讓渡シ得ヘキ領土ニツアリ西ニハ波蘭東ニハ樺太北半部ト語リタルコトアル旨ヲ述ベタリ
(右「コルチャック」ノ談ニ付テハ先年モ同大使ヨリ大臣ニ語リタルコトアリ)

七六九 九月二十三日 在浦潮渡辺総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛

浦潮方面在留邦人ノ窮状ニ対スル救済策ニ付
意見具申ノ件

附屬書 九月二十二日附日本居留民会頭ヨリ渡辺総領事
代理宛陳情書写

機密第八三号

大正十年九月二十三日

(十月三日接受)

一七「シベリア」出兵関係一件 七六九

蘇里ノ手前四五露里ノ橋梁モ亦爆破セラル

七六八 八月五日 内田外務大臣「会談」
在本邦英國大使

浦潮及チタ兩方面ノ政情並日本ノ西比利亜撤
兵問題等ニ関スル件

大正十年八月五日在本邦英國大使内田大臣ヲ来訪シ今般在浦潮英國領事ノ報告ニ依レハ同地ノ政情不安ナルカ為メ在留外國人及恐ラク日本人モ日本軍隊ノ撤退ヲ好マザルモノノ如ク而シテ「チタ」政府ハ余リニ左偏シ「メルクロフ」政權ハ余リニ右偏シ何レモ信賴スルニ足ラザルヲ以テ兩者ヲ妥協セシムルヲ得バ政情安定シテ日本軍撤退スルモ不安ナキニ至ルヘントノ趣ナル旨述ヘタルニヨリ大臣ハ日本政府ニ於テモ右兩者ノ融和合一ヲ見ルヲ得ハ政權安定上好都合ナルベシト思考シ居リ之ガ為ニハ相当斡旋スルモ差支ナキ所存ニシテ永ク同地方ニ兵ヲ駐ムルハ我政府ノ欲セザル所ナル旨応答シタル処大使ハ最近ニ於ケル浦潮派遣軍一部交替ノ事ニ言及シ撤兵時期ノ延引ヲ意味スルモノト認メ居ルガ如キ口吻ヲ漏ラシタルニ依リ大臣ハ軍隊ノ交替ハ撤兵時期ニ何等影響ヲ及ボスベキモノニアラザル旨ヲ述ベタリ

在浦潮

総領事代理 領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

露領在留民ノ窮状ニ関スル件

当地在留民一般ノ最近窮状救済方嘆願ニ関シテハ不取敢本月二十二日往電第一九(一)号ヲ以テ乍唐突及報告置候処尙右嘆願委員タル当地居留民会及商工會議所幹部十六名ノ連合代表者細井民会頭ヨリ別紙ノ通り陳述要領文書ヲ以テ本官ニ願出有之候ニ付茲ニ及進達候間御閱覽相成度最近ニ於ケル当地在留邦人ノ窮状ハ右陳情書中ニ述フルカ如ク實際其極度ニ達シアリ既報ノ通り最近二三ヶ月ニ於ケル当館取扱ニ係ル日本人ノ対内外人関係ノ商取引乃至家賃不払又ハ欺偽恐喝取財の訴事件頗ニ劇増シ老練敏活ナル係館員(前警部タリシ中山通訳生)モ殆ト忙殺セラルル有様ニシテ在浦邦商閉店者続出シ大商會支店ノ如キモ多クハ名義上閉店セサルモ何レモ店員ニ大削減ヲナシ中小級ノ奸商人カ各処ニ負債ヲナシタル儘夜遁同様ニ引揚ケタルモノ少ナカラス又ハ新聞ノ或ルモノハ個人乃至商店ニ対シ潜の惡辣手段ニヨリ取財ヲ計ルモノアリ之等惡化の事実ハ殆ト枚挙ニ遑ア

ラサル有様ニシテ此現象ニ対スル制裁処罰ノ途ハ露国政權權威實力ノ現状乃至当館ノ地位上殆ト手ノ付ケ処ナキ現況ニシテ此儘進マンカ一般露民ノ窮迫益々急ナルト邦人ノ熱急性ナルニ加フルニ近来ノ惡思潮感染ノ徴アルニヨリ遂ニハ如何ナル失態ヲ演スルニ至ルヲ保セス現ニ今回ノ嘆願ノ如キ当地商工居留民両会カ曩頃時局ニ関シ要望事項ヲ陳情請願シ置キナカラ月ヲ越エサルノ今日何等具体案ヲ発見セサルニヨリ只管現状ヲ述ヘテ漠然政府当局ノ救助ヲ願出タルカ如キ彼等幹部カ如何ニ自失の態度ノ半面部内民心ノ惡化ヲ恐レアルカラ語ルモノニシテ誠ニ寒心ノ至リニ堪ヘサルモノアリト被存候就テハ之カ対応策トシテノ愚案左ノ通り開陳致度候

現露領在留民ノ窮狀救済策

一、根本的対策

露国（茲ニハ先ツ極東露領即チ「チタ」政權圈内ニ就キテ）ノ政情殊ニ財政經濟情態ノ改善復活ヲ計ルコト即チ帝國政府ハ目下ノ大連商議ニ於テ我方ノ満足スヘキ条件ヲ獲得シテ一ノ条約ヲ締結スル上ハ該締約カ単ニ撤兵ノ名目ノ為メニナサレサルモノナル限り「チタ」政權ニ対シ積極的ニ物

質上並ニ精神上ノ援助ヲ与ヘ彼方ヲシテ各種ノ政令及約定ヲ実行セシムル様ニ善導ス之カ為メニハ可成速ニ減兵手段ヲ取り「チタ」政權ヲシテ極東統一ノ実ヲ拳ケシムルト同時ニ減兵ニヨリ得ヘキ軍費ヲ我經濟的施設費ニ転用スルコトトシ同時ニ帝國ハ率先シテ米国其他ヲ説キテ「チタ」援助ニ要スル借款團（帝國独力出資ノ能否ハ暫ク別問題トシ連合出資ハ万端都合ヨシト認ム）ヲ作り費途其他ノ監督權ヲ確保シツツ極東ノ運輸交通機關ノ改善行政円滑及ヒ富源開發物資ノ需給等經濟財政狀態ノ改善ヲ計リ漸次露人ノ購買力ヲ増進セシムヘシ斯クテ露人カ生存購求力ヲ生スルニ至リテ初メテ帝國トノ經濟關係ヲ増進シ露領在留民モ共存共榮ノ域ニ達スルヲ得ヘシ如斯ニシテ初メテ「チタ」側カ誓約スル保証条件ヲモ履行セシメ得テ締約ノ効果ヲ齎ラスモノニシテ帝國ノ對露乃至西伯利發展ノ実ヲ拳クルヲ得ヘク即チ在留民ノ窮狀ヲ永遠ニ救済スルモノナリ

二、応急的対策

帝國政府ニシテ第一ニ掲ケタル根本的対策ヲ実行セラルルニ至ル場合ニ於テモ之カ実現ハ幾多ノ複雑細密ナル計畫経路ヲ要スヘキニ付相当ノ時日ヲ經過スヘク然ルニ現下ノ在

留民全体ノ狀況ハ前述ノ通り今ヤ殆ト持チキレサル程ノ極度ニ達セルヲ以テ当館管内約六千人ノ邦人中直接間接ニ軍隊關係ノモノ約一千位ハ撤兵ト共ニ自然引揚ケヲナスヘキモ残余約五千人ノ邦人ハ派兵前ヨリノ所謂土着的居留民ニシテ其多数ハ露西亜向職業者タリ彼等ヲ日本ニ引揚クルモ生活困難ニシテ内地ノ厄介者タルノミナラス之本来移民政策上好マシカラサル結果ヲ来スノ虞アリ且ツ僅少ナル大商会以外ニ属スル所謂在留邦商ナルモノハ折角多年当方面ニ苦心經營シテ築キ上ケタル事業ヲ一時閉鎖シテ引揚ケサルヘカラス斯クテハ他日当方面カ有望ノ狀態ニ進ミタルトキ最早再ヒ起ツ能ハサルノ不幸ヲ見ルニ至ルヘシ依之政府ニシテ前項根本政策ニ出テラルル御決心ナルニ於テハ此際之等分子及多数移民ヲ持久ニ耐ヘ得ル程度ニ一時的ニ救助ヲ与フルコト必要ニシテ且ツ機宜ノ処置ナリト被存尤モ右救助カ単ニ彼等ノ遊ヒ喰ヲナサシムルニアラスシテ一ハ消極的ニ彼等ヲシテ將ニ来ルヘキ取引生活ノ復活迄現地位ヲ支ヘ得セシメ他ハ積極的ニ可成此救助ニヨリテ他日發展ノ素地ヲ作ラシメ度キニアルハ勿論ノコトナリ而シテ右一時的救助何レノ途ニ於テモ二途ノ内消極ヲ与フルニ當リ今回居

留民カ願出タル所謂行詰ノ泣言ニ対シテ之ヲ為スハ當ヲ得サルノミナラス實際賜金ノ分配等ニ関シテモ種々困難ヲ生スヘキニ付右ノ内消極的救助トシテハ曩ニ彼等カ願出居ル救済金下附願及露貨救済請願（政府トシテ此種願出ヲ容ルヘキ理由ナキモ實際ノ損害狀態ヲ洞察シテ）ノ嘆願ニ対シ之ヲ扱キ交セ出来得ル範圍ニ於テ相等額ヲ特ニ救恤のニ下附スルコトニセハ定住的在留邦人カ刻下ノ窮境ヲ一時脱却シテ幾分持久ニ耐ユルコトヲ得ヘシ尙又積極的救済策トシテハ在留邦商カ目下ノ悲境ヲ軫シテ他日發展ノ素地ヲ作ル為メニ必要ナル資金ノ下附乃至貸与ヲ指スモノニシテ彼等カ經濟的ニ当方面ニ活躍ヲナス為メニ肝要ナル資金ヲ國家トシテ融通供給スルノ一事ニアリ愚案スルニ当方面ニ我經濟的發展ヲ企ツルニハ前頭根本的対策ノ外個人ノ大資本家ヲ懲罰シテ各般ノ事業ニ投資セシムルヲ以テ主ナルモノトスヘキモ中流以下ノ邦商ヲシテ各自相當ノ努力ニヨリテ之ヲ補足セシムルコト亦肝要ナラン此意味ニ於テ曩ニ当地邦商ノ一団カ請願セル二百万円ノ低利資金貸付願乃至購買組合ノ七万五千円融通願ノ如キ其計畫成案ニ不備ナル点アラシモ若シ政府当局ニ於テ之ヲ審議考查シテ条件ヲ具備セシ

メ相当ノ資金ヲ御融通セラルルニ於テハ一ハ彼等カ折角得來レル地盤ヲ固守シ將來ノ發展ヲ期シ同時ニ彼等ニ附随セル在留民モ夫々相当ノ生計ヲ得テ露領拓殖ノ業ニ貢獻スル所少ナカラサルヘシ国家カ派遣軍ニ対シ多額ノ軍費ヲ支出シアリ一ヶ師団ノ交代丈ニ千万金ヲ要スルモ必要ノ場合之カ支出ヲナシ又ハ国库ヨリ各種通商航海等ノ保護ニ補助金ヲ支出シアルコト日露實業株式会社ニ低利資本ノ貸下ヲシタルコト等ヲ思ヘハ帝国ノ平和の北進發展戰ノ先驅者トシテ乍微力多年奮闘シ來レル彼等邦商ノ立脚ニ要スル相当資金ノ融通ヲナスハ国費多端ノ際困難ナルヘキモ国家的ニ大ニ有意義ノ支出ナリト思考被致候右ハ今次ノ大連會商カ帝國政府ニ於テ對露乃至對極東政策ヲ飽迄積極のニ御解決ノ御方針ニテ真面目ニ行ハレ居ルモノト推定シテ当地及西伯利奧地ヨリ避難セル我在留民一般ノ現状ニ照シ善後策トシテ愚案ヲ開陳シタル迄ニ有之素ヨリ政府御当路ニ於テハ之等ノ事柄ニ對シ既ニ業ニ充分ノ御成案ト御對策ヲ講セラレ居ル儀ハ小官ノ確信スル所ニ有之候得共偶々今回当地居留民ノ嘆願ニ連レ乍遲延僭越ヲ不顧卑見及副申候次第ニ有之候間右ニ御諒知相成度將又万一今回ノ對「チタ」御商議カ

陳情書

過般來本會及日本商工會議所連合協議會ヲ開催シ事務局問題タル「如何ニセハ今日ノ在留邦人ノ經濟事情ヲ救済シ得ベキヤ」ニ関シ兩會役員數回ノ研究ヲ重ネ候ヘドモ遂ニ何等名案ヲ発見スルニ至ラズ然ルニ客年來出願仕候低利資金貸附問題、救済金下附問題、露貨救済問題等何レモ不幸ニシテ未ダ御聽許ノ運ビニ至ラズ唯茫然自失スルノミニシテ殆絶望ノ域ニ沈淪セル狀態ニ有之候就テハ別記在留民目下ニ於ケル窮狀ノ大要ヲ貴聞ニ達シ候間何卒事情御憐察ノ上特ニ深甚ナル御同情ト格段ナル御考慮ヲ相煩ハシ度茲ニ兩會役員一同相揃陳情仕候也

大正十年九月二十二日

日本居留民會頭 細井 良吉

帝國總領事代理

領事 渡辺 理惠殿

(別紙)

目下在留邦人窮狀ノ大要

一、日露購買販売組合ハ主トシテ日用必須品ヲ販売セルモノナルガ昨年頃迄ハ一日ノ売上高參百円乃至五百円ナリ

一七「シベリア」出兵關係一件 七六九

単ニ撤兵其他時局問題ノ當面の御解決ニアリテ當方面ノ問題ハ當分成行ニ御放任ノ御方針ニ有之様ノ次第ニテ前述根本的乃至應急的救済ノ途絶對ニ無之様ノ御内議ニ有之候得ハ大連ノ締約ハ一ノ空文ニ終ルヘク撤兵後當方面カ無政府情態ニ陥ルヘキハ「チタ」現下ノ実力及各地方動搖ノ形勢乃至當地方一般ノ經濟的窮迫ニ連レテ惡化シアル情勢等ニ鑑ミ明カナル所ニシテ斯ル情勢ノ下ニ無職窮困ナル多數邦人ヲ殘留セシムルコト(在留者ノ或ル部分カ撤兵ト否トニ関ラス刻下ノ窮狀上引揚ヲナスニ至ルハ自然ノ事ニ属スルハ勿論ナリ)ハ最モ好マシカラサル事態ヲ惹起スヘキニヨリ政府トシテハ適當ノ時機ニ於テ在留民ニ對シ命令的ニヨラスシテ論旨的ニ自由引揚ケヲ奨励シ之等引揚民ニ對シテハ汽船便乘等相當便宜ヲ与フルコトナシ各自ノ危險ニ於テ殘留ヲ欲スルモノノミ其意ニ任セテ在留セシメ之ニ對シ出來得ル範圍ノ保護ヲ加フルコトナシ可然ト被相考候別紙陳情書寫相添此段報告旁々卑見開陳申進候 敬具

註 渡辺總領事代理第一九一号電報ヲ省略セリ

(附屬書)

九月二十二日附日本居留民會頭ヨリ渡辺總領事代理宛陳情書寫

シモノ今日ハ僅ニ參、四拾円ニ上ラズ為メニ毎月五、六百元ノ欠損ヲ招ケル狀態ナリ

二、從來ハ白米ノ小買ヲナスモノモ少ナクモ二ブード(ハ十フント)入苧俵ヲ下ラザリシモノ現今ハ一フント宛ヲ購入スルモノ多數ニ上リ醬油ノ如キモ樽買ノモノハ少ナクシテ麦酒瓶ノ如キヲ以テスルモノ漸次其數ヲ加フルニ至レリ

三、雜貨殊ニ日用品タル靴ノ如キ日本ニテ原価六円五十錢ノモノ当地ニ於テハ之ニ関稅其他諸ガカリヲ加フル時ハ拾匁、貳円ニ販売セザルベカラザルモノヲ四円貳拾錢ニテ小売セントスルモ顧客ナク止ムヲ得ズ遂ニ大損失ヲ自覺シテ一足參円參拾錢ノ割ヲ以テ稍多數ヲ卸売セル実例アリ之此ノ如クセザレバ忽チ糊口ニ差支フルヲ以テナリトス

四、旅館ノ如キ毎夜空室多ク拾八九戸中數戸ハ最近數ヶ月間一人ノ宿泊者ナキ狀態ニアリ

五、近時支那人ノ家屋建築頻繁ナルニ反シ邦人ノ建築ヲナスモノ絶無ナル為大工職ハ徒食セルノミ洋服職工亦極メテ閑散ナリトス

七九一

六、当地開業医拾名(内科八名、齒科三名)ナルガ近時患者ノ數激減シ其少數ノ患者ニ係ル医薬モ之ヲ値切リテ払ハズ藥価ノ集金亦頗困難ニシテ何レモ糊口ニサヘ影響スルニ至レリ然ラバ売藥店如何ト顧ミルニ是亦殆顧客ナキ状態ナリ之患者少ナキガ為メニアラズシテ財政窮乏ノ結果貴重ナル生命ヲ顧慮スルノ違ナキニ至レル証左ナリトス

七、当地唯一ノ日本人経営ノ洗湯徳永フロ屋ナルモノアリ從來ハ毎早朝ヨリ浴客群ヲナセルモ今朝(九月二十二日)七時入浴セルニ自分ガ先登第一ニシテ八時退出スル迄全一時間中僅ニ他ニ二名ノ入浴者ヲ見タルノミ在留約五千ノ邦人湯錢ニツマリタルノ状態タリ

八、質屋ノ如キモ質入品欠乏シ近時ハ鍋釜類ヲ携ヘ来リテ僅ニ一円二円ノ借財ヲナスモノアルニ至レリ

九、近時行旅病人不浪者等出デテ民会ヲ煩ハスモノ漸次其數ヲ加フルニ至レリ

十、殖民地ノ常態ナルガ從來当民会ノ賦課金ノ如キ毎月數円乃至數十円ヲ納付スルニ対シ飯ヘ多少重課ナリト認ムルコトアルモ之ヲロニスルヲ恥ヅルガ如キ状態(所謂負ケ惜シミ)ナリシガ本年ニ入りテハ時ニ課率ノ低減ヲ請

氏ヨリ連合鐵道委員会及当地米國領事ヘ電報アリタリ

七七一 十一月二日 在ハルビン丸田總領事代理ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

日本軍ノ西比利亞撤兵問題ニ関スルハルビン

露字紙ノ論調報告ノ件

第一三三

一日ノ「ロシヤ」社説ハ「ヤブタ」通信ニ拠レバ二十五日ノ閣議ハ沿海州撤兵ヲ可決シタルガ撤兵ノ期ハ確定セザルモ日本ノ任意ニ即時実行スルモノト思ハル右決議ハ日本ノ任意ニ依リ他ノ掣肘ナクシテ行フモノナルコトヲ示サムトスルモ實ハ米國側ノ要求モアリ且又英國モ日本ノ駐兵ヲ喜バザルモノアルヲ以テ之ヲ余儀ナクセラレタルモノナリ日本ハ最初ハ齊多トノ通商条約サヘ締結セバ其ノ商工業者ノ通商開始ノ要求ヲ満足セシメ得ベシト思惟セルガ如キモ齊多側ガ撤兵ヲ主張シテ降ラザリシヲ以テ交渉長引キタリシナリトシ米國ノ圧迫ヲ想像シ次ニ兎ニ角吾人ハ撤兵ヲ喜ブモノニシテ日本ノ従前ノ行動ヲ忘レムトスルモノナルモ撤兵ヲ決スルニ至レル各方面ノ事情ヲ想像スルトキハ猶日本ノ齊多ニ対スル誠意ニ幾分ノ疑ヲ挿マザルベカラズ日本ハ

一七「シベリア」出兵關係一件 七七一 七七二

求シテ憚ラザルモノアルニ至リ兩三ヶ月以來ハ滯納者ノ數頗ニ増加シ本会ノ維持ニスラ差支ヘヲ来スノ虞アルニ至レリ

以上記述スル処ハ単ニ其大要ニ過ギザレドモ若シ猶詳細ニ之ヲ調査スルトキハ更ニ甚シキモノアルベキヲ信ズ從テ近時居留民ノ心理状態ハ漸次悪化シ来リ借財ハ之ヲ返済セザルヲ以テ普通事トナシ進ンテハ詐偽若クハ恐喝等ノ奸手段ヲ敢行スルモノ日々増加スルノ状況ニシテ今ヤ在留民困窮ノ極ニ達セルモノノ如シ故ニ若シ現状態ニシテ今後継続數ヶ月ニ及バンカ在留民中如何ナル思想ノ變化ヲ来スモノ出ヅルナキヲ保セズ是レ衷心余等ノ最憂慮スル所ナリトス

七七〇 十月十一日

在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

聯合國鐵道委員會ノスチーヴンス技術部長
米ニ付報告ノ件

第四六〇号

(十月十一日接受)

技術部長「スチーヴンス」氏ハ本國政府ノ訓令ニ依リ華盛頓會議參列ノ為今週中哈爾濱出發歸國ノ途ニ上ルベク不在中ハ「ジョンソン」大佐部長代理タルベキ旨十月十一日同

大連ニテ極東共和國ノ存在ヲ危クスルガ如キ条件ヲ主張シ沿海州ニ齊多反対ノ地帯ヲ作り日本ノ欲スル政權ヲ存立セシメムコトヲ陰ニ計リ居ルナリ云々ト述ベ居レリ

二日「ノウオスチヂーズニ」ハ「インテルウエンチャ」ノ終局ト題シ前記「ヤブタ」通信ニ依リ閣議ノ決定ハ華府會議前當然来ルベキモノナリトシ茲ニ至ル迄ノ經過ヲ記述シ進ンデ右通信ノ確カニシテ近キ將來実行スベキモノトシ浦潮政權ノ有力者ノ奔走及黨争ノ事實ヲ挙ゲ最後ニ極東人民ガ歡喜スベキ平和ノ曙光ハ今ヤ見エタリト結ベリ

二日「ロシヤ」ハ撤兵問題ト題シ日本ノ後貝加爾撤兵後沿海州ヲ齊多ニ対スル一地带トシ「メルクローフ」政權ヲ樹立セシメタリトシ其ノ經過ヲ論ジ浦潮政權ノ援助沿海州ヲ特別地域トスルノ舉ハ何等ノ効果ヲモ齎サザルベキコトヲ力説セリ

七七二 十二月九日

内田外務大臣
在本邦米國大使 會談

浦潮政府外交部長ノ訪日及訪米ノ目的並浦潮派遣日本軍ノ交代兵等ニ関スル件

附記 コレスニコフ外務省ニ渡領事訪問ノ件

七九三

大正十年十二月九日在本邦米國大使「ウォーレン」氏内田大臣ヲ来訪シタル際左ノ通り語レリ

両三日前浦潮政府外交部長「コレスニコフ」訳官ヲ伴ヒテ本使ヲ来訪シ

日本政府ヨリ浦潮政府ヘ二万五千人分ノ武器ヲ引渡サルル様尽力アリ度ク右ニ付テハ英仏兩國大使ニモ斡旋方依頼スル積ナリ

ト申シ出デタルニヨリ本使ハ

日本ハ目下齊多政府ト交渉ヲ進メツツアリ此際日本ガ右武器ヲ引渡スガ如キコト有得ベキヤ浦潮政府ニ武器ヲ引渡スコトハ即チ之ヲ援助シ齊多政府ト對抗セシムルコトヲ意味ス斯クノ如キハ到底不可能ナルベシ

ト答ヘタルニ「コ」ハ更ニ

自分ハ是ヨリ米國ニ赴クニ付國務長官宛紹介狀ヲ得タシト云ヘルヨリ

紹介狀ヲ与フルコトハ即チ浦潮政府ヲ承認スル成行トナルベシ

トテ之ヲ拒絶シ尚

貴下ガ米國ニ赴ク目的如何浦潮政權ノ承認ヲ求ムル為ナ

之レ到底不可能命ノアラン限リハ出来難キコトナリト豪語シ「コルチャック」以来反過激派ハ連合側ノ援助ヲ得タルガ目下其ノ流レヲ汲ムモノ独リ浦潮政府アルノミナルニ此ノ歴史的關係ヲ無視シテ浦潮側ヲ援助セザルハ不都合ナリ

トノ意味ヲ語レリ

従来西比利亞ニ於ケル日本ノ態度ニ就テハ往々不利益ナル報道國務省側ニ伝ヘラルルコトアリ今回ノ如キモ本人カ如何ナルコトヲ言触ラスヤモ不知ルニ付内々右ノ次第ヲ閣下ニ伝ヘ且ツ本國政府ニ電報スル積ナリ云々

大使ヨリ「コ」ハ外務省ヲ訪問シタリヤト尋ネタルニ對シ大臣ハ其来訪シタルモ面会セザリシ旨ヲ答ヘ尚序ヲ以テ浦潮派遣軍交代兵ノ件ニ言及シ帝國政府ハ曩ニ「チタ」政府ガ極東露領ヲ統一シ同地方ニ於ケル唯一ノ実力アル政府タルニ顧ミ同政府ノ希望ニ応ジ之ト交渉開始ノコトニ決定シタル処同政府反對分子ハ之ヲ察知シ急遽浦潮ニ政變ヲ起シタル次第ナルガ右ハ我方ニトリ誠ニ迷惑ノ次第ニテ日本軍ガ之ヲ援助シタリトノ非難ノ如キハ全然事實ニ反シ我立場ヲ了解セザルノ致ス所ナリ日本政府トシテハ右地方の小政

リヤ

ト反問シタルニ

不然日本ヨリハ上記武器ノ引渡ヲ受ケンカ為来日シタルガ米國側ヨリハ財政援助ヲ与ヘラルル様依頼センカ為ナリ

ト説明シタルニ付本使ハ

右ハ甚タ困難ナリ蓋シ米國側ガ之ニ応スルコトハ浦潮政府ヲ承認シ且ツ之ヲ援助シテ齊多ト抗争セシムルノ結果

トナルヘシ

ト答エタルニ「コ」ハ

露國人ハ最早決シテ兄弟相關キ互ニ流血ノ慘ヲ演ズルコトナシ自分ノ目的ハ沿海州「オコツク」勘察加地方カ浦潮政府ノ権力下ニ帰シタルニ依リ之等地方ノ治安ヲ維持スル為武器ト財政ノ援助トヲ必要トスルニ付之ヲ得ンガ為ナリ鬭爭ハ吾人自ラ之ヲ行ハズ支那人朝鮮人ヲシテ為サシム

ト語レリ於是本使ハ

速ニ内爭ヲ止メ齊多側ト妥協融和シテハ如何

ト問ヒタルニ「コ」ハ

變ノ為「チタ」政府トノ交渉方針ヲ變更スル必要ヲ認メズ過般來大連ニ於テ交渉ヲ開始シ同政府ガ我立場ヲ了解シテ速ニ協定成立スベキヲ期待シ実ハ派遣軍中既ニ服役期限ヲ經過シ交代ノ必要ニ迫ラレ居ルモノアルニ拘ラズ其交代ヲ差控ヘ居タルモ「チタ」側ハ兎角誠意ヲ欠キ會議ハ遅々トシテ進マズ右交代ハ最早一日モ延期シ難キニ至リタルヲ以テ這回之ヲ実行スルコトナリタルガ交代後モ派遣軍ノ兵數從來ト變化ナカルベキ旨説明シタル処大使ハ派遣軍兵數ハ減少出来ザルヤト尋ネタルニヨリ大臣ハ其駐屯区域ハ浦潮ノミナラズ「ニコリスク」「グロデコウ」「スパスコエ」ニ亘リ居リ此等地方ヲ除外シテハ浦潮ノ安全期シ難ク現在ニテモ兵力ノ不足ヲ感ズル位ナル故減兵ハ到底不可能ナル旨答ヘタリ

(附記)

コレスニコフ外務省ニ渡辺理惠領事ヲ訪問ノ件

十二月八日「コレスニコフ」予テ知合ノ關係ヨリ渡辺領事ヲ本省ニ訪問シ自分ハ米國大使ニ向ヒ日本ノ西比利亞撤兵ニ反對ノ意見ヲ述べ今撤兵セバ必ズ尼港事件ノ再演ヲ見ルノ虞アルコトヲ説キタルニ同大使ハ之ヲ首肯セリ尚英仏兩

国大使ニモ同様意見ヲ述ブル積リナル旨ヲ語り且自分ハ明後日出発渡米スルニ付内田外務大臣ニ面陳シタシトノ希望ヲ述ベタル趣ナルモ大臣ハ会见セラレザリキ

七七三 十二月十日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使
在浦潮永井政務部長代理
松島政務部長(大連出張中)
(各宛)
(電報)

浦潮派遣軍一部交代ニ関シ公表ノ件

別電 同日内田外務大臣発小幡公使永井政務部長代理

松島政務部長各宛電報台第四〇四号

右公表文

合第四〇三号

浦潮派遣軍一部交代ニ関シ十日別電合第四〇四号ノ通り公表シタリ

註 本件ハ十二月十日在米国幣原大使宛会議第一五七号及別電第一五八号(英文ノ公表文)ヲ以テ電報セラレ同時ニ必要ニ応ジ任国政府ニ説明スル様訓令セラレタリ尚右二電ヲ訓令トシテ英仏伊ハ転電スル様訓令セリ

(別電)

十二月十日内田外務大臣発小幡公使永井政務部長代理松島政務部長宛電報第四〇四号

and other problems now in progress at Dairen with the Chita Government. For the moment, however, the probable date of conclusion of the Dairen Conference cannot be predicted, while the relief of the troops in question can no longer be postponed.

In these circumstances, the Japanese Government have determined to carry out the relief in question, it being understood that the number of troops of Japanese Expeditionary forces after this partial relief has been effected will remain the same as hitherto.

As has been repeatedly declared by the Japanese Government, the political situation in Eastern Siberia has not yet been stabilized, and the danger to which residents and traffic are still exposed, coupled with the existing menace on the frontier, compels the Japanese Government to maintain the troops in their present station.

The Japanese Government will immediately with-

浦潮派遣軍ノ一部交代ニ関スル公表文

合第四〇四号(別電)

浦潮派遣軍ノ一部ハ既ニ交代期ニ達シ居タルモ過般来大連ニ於テ齊多政府トノ間ニ通商其ノ他ニ関スル交渉進行中ナルニ顧ミ其ノ儘ト為シ来リタル次第ナルガ同会議終了ノ時期ハ目下之ヲ予断スルヲ得ズ而シテ右部隊ノ交代ハ最早遷延スルヲ許サザル事情アルニ依リ帝國政府ハ這回右交代ヲ実行スルコトナレリ尤モ右交代ニ拘ラズ浦潮派遣軍ノ兵數ハ從來ト差異ナク全ク同軍一部ノ交代ニ過ギザルモノトス將又同派遣軍ハ帝國政府ガ從來屢々声明セル通り極東露領ノ政情未ダ安定セズ居留民及交通ニ対スル危険並国境ニ対スル脅威存在スル為己ムヲ得ズ之ヲ駐留スルモノナルヲ以テ右危険ニ対スル保障確立スルヲ得ベ直ニ之ヲ撤退スベキハ從來屢次声明セル通りナリ

(右英訳文)

A partial relief of the Japanese troops stationed in the locality of Vladivostok, the time for which arrived some time ago, has so far been postponed, in view of the negotiations on commercial relations

draw the troops, in the event of general security being assured in Siberia against the dangers indicated above.

七十四 十二月十六日

内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使在中國小幡公使松島政務部長在浦潮永井政務部長代理各宛(電報)

在本邦米國大使ヨリ浦潮政府外交部長トノ会

談ヲ内田大臣ニ披露シ大臣ヨリ浦潮派遣軍交

代兵ニ付説明ノ件

合第四一四号

本月九日在本邦米國大使本大臣ヲ来訪談話シタル所ニ依レバ兩三日浦潮外交部長「コレスニコフ」同大使ヲ訪問シ日本政府ガ浦潮政府ニ二万五千人分ノ武器ヲ引渡ス様尽力方依頼シタルモ同大使ハ右引渡ハ浦潮政府ヲ援助シテ齊多ト對抗セシムル結果トナルベク目下日本ガ齊多ト交渉ヲ進メツツアル際到底不可能ナルベシト答ヘタルニ「コ」ハ米國ニ赴ク趣ニテ國務長官宛紹介状ヲ求メタルニ対シ紹介状ヲ与フルハ則チ浦潮政府ヲ承認スル成行トナルベシトテ之ヲ拒絶シ尙其ノ米國行ノ目的ハ浦潮政府ノ承認ヲ求メムガ

為ナリヤト問ヒタルニ然ラズ日本ヨリハ上記武器ノ引渡ヲ受ケンガ為ニ来日シタルガ米国側ヨリハ財政援助ヲ求メンガ為ナリト答ヘタルニ付同大使ハ右ハ甚タ困難ニシテ米国側ガ之ニ応ズルコトハ浦潮政府ヲ承認シ且之ヲ援助シテ齊多ト抗争セシムルノ結果トナルベキ旨注意シタルニ「コ」ハ露国人ハ最早決シテ内争ノ為血ヲ流スコトナシ今ヤ沿海州「オコック」勘察加地方ガ浦潮ノ権力下ニ帰シタルニ付右地方ノ治安ヲ維持スル為必要ノ武器ト財政援助トヲ得ムトスルニアリト語レリ於是同大使ハ速ニ内争ヲ止メ齊多側ト妥協融和シテハ如何ト問ヒタルニ之到底不可能ニシテ命ノアラン限り出来難キコトナリト豪語シ聯合側ガ「コルチャック」以来ノ歴史的關係ヲ無視シテ其ノ流レヲ汲ム唯一ノ浦潮政府ヲ援助セザルハ不都合ナリトノ意味ヲ語リタル処從來西比利亞ニ於ケル日本ノ態度ニ就テハ往々不利益ナル報道國務省側ニ伝ヘラルルコトアリ今回ノ如キモ本人ガ如何ナルコトヲ言振ラスヤモ知レザルニ付内々右ノ次第ヲ本大臣ニ伝ヘ且本國政府ニ電報スル積ナリ云々

是ヨリ先「コ」ハ予テ知合ノ關係ヨリ渡邊領事ヲ本省ニ訪問シ自分ハ米国大使ニ向ヒ今日日本ガ撤兵セバ必ズ尼港事件

ヲ再演スルノ虞アルコトヲ説キタルニ同大使ハ之ヲ首肯シタル旨ヲ語リテ本大臣ニ面陳シタシトノ希望ヲ述べタル趣ナルカ本大臣ハ会見セザリキ前記米国大使トノ會談中「コ」ガ本省ヲ訪問セザリシヤトノ同大使ノ問ニ對シ本大臣ハ右ノ次第ヲ告ゲ尙序ヲ以テ浦潮派遣軍交代兵ノ件ニ言及シ帝國政府ハ曩ニ齊多政府カ極東露領ニ於ケル唯一ノ実力アル政府タルニ顧ミ同政府ノ希望ニ応ジ之ト交渉開始ノコトニ決定シタル処同政府反對分子ハ之ヲ察知シ急遽浦潮ニ政變ヲ起シタル次第ナルカ右ハ我方ニトリ誠ニ迷惑ノ次第ニテ日本軍ガ之ヲ援助シタリトノ非難ノ如キハ全然事實ニ反シ我立場ヲ了解セザルノ致ス所ナリ日本政府トシテハ右地方の小政變ノ為齊多トノ交渉方針ヲ變更スル必要ヲ認メズ過般來大連ニ於テ交渉ヲ開始シ同政府ガ我立場ヲ了解シテ速ニ協定成立スベキヲ期待シ実ハ派遣軍中既ニ服役期限ヲ經過シ交代ノ必要ニ迫ラレ居ルモノアルニ関ラズ其交代ヲ差控ヘ居タルモ齊多側ハ兎角誠意ヲ欠キ會議ハ遅々トシテ進マズ右交代ハ最早一日モ延期シ難キニ至リタルヲ以テ這回之ヲ実行スルコトナリタルカ交代後モ派遣軍ノ兵數從來ト變化ナカルベキ旨説明シタル処大使ハ派遣軍兵數ハ減少

出来サルヤト尋ネタルニヨリ本大臣ハ其ノ駐屯区域ハ浦潮ノミナラズ「ニコリスク」「グロデコウ」「スパスコエ」ニ亘リ居リ此等地方ヲ除外シテハ浦潮ノ安全期シ難ク現在ニテモ兵力ノ不足ヲ感ズル位ナル故減兵ハ到底不可能ナル旨答ヘタリ

(在米大使宛ニハ) 在歐各大使、波蘭、瑞典へ転電アリタシ
(永井宛ニハ) 松村総領事ニ通報アリタシ

七七五 十二月十九日

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

烏蘇里鐵道及東支鐵道間ノ車輛運行ニ日本軍
ハ干涉スル權利無シトノ米國側抗議ニ對シ日

本側ヨリ説明ノ件

會議第二〇四号

在哈爾濱技術部日本委員ヨリノ電報ニヨレバ我野戰交通部ハ予テ烏蘇里鐵道車輛ノ散逸ヲ防グノ策ヲ執リツツアリタルガ去ル六日及七日「ボグラニーチナヤ」ニ於テ烏鉄ヨリ東支ヘノ車輛出越數ガ予テ打合ノ制限ヲ超エタルヲ以テ「グロデコウ」ニ於ケル日本軍ハ空軍ノ東行ヲ抑留シタルニ「ジョンソン」ハ渡邊ニ對シ日本軍ハ普通列車ノ運行ニ

一七「シベリア」出兵關係一件 七七五 七七六

干涉スルノ權利ナシト抗議シ説明ヲ求メタルニ付交通部ノ該処置ハ東支長官トノ車輛調節ニ關スル協定ニ基ク一時的処置ニ過ギザル旨ヲ以テ種々説明シタルガ十五日「ジョンソン」ハ軍憲ノ鐵道運行干涉ヲ禁ズル聯合國決議ヲ日本軍憲ガ無視シツアルコトヲ華盛頓ニ電報シタル趣渡邊ニ申し来リタル由

尙八日東支鐵道ガ突然第三、四列車ノ運轉ヲ「ボグラニーチナヤ」ニ於テ打切り烏鉄トノ連絡ヲ絶ツニ至リタルヲ以テ渡邊ハ東支當局及「ジョンソン」ニ其理由ヲ糺シタルモ要領ヲ得ザリシトノコトナリ

七七六 十二月二十二日

華府會議全權ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

華府會議進行上ノ不利ヲ避クル為西比利亞ニ
於ケル鐵道運行ニ對スル我軍ノ干涉抑制方針
採用方稟申ノ件

會議第二六〇号

(十二月二十三日接受)

貴電第二〇四号ニ関シ

在「シベリア」我軍ノ米國方面ニ於ケル非難ハ從來主トシテ鐵道運行干涉ニ關スルモノナリシ処近來斯クノ如キ事件

七九九

ノ發生減少セルハ日本全權等到着以來「シベリア」問題ニ對スル非難ハ比較的新聞紙上ニモ少ク會議ニ於テ他ノ大問題決定セララルルニ於テハ本問題ハ外面倒ナク片付ク望ミナキニ非ザリシ処最近「チタ」代表者ノ到着ト共ニ追々我軍撤退ノ宣伝新聞紙上ニ表ハルルニ至リ之ニ對シテハ当方ニ於テモ相當注意ヲ払ヒ輿論ヲ我ニ不利ナラシメザル様処置シ居ル処又々本件ノ如ク運行干涉ノ問題ヲ目下ノ如キ最大切ナル時期ニ惹起スルコトハ會議ニ於ケル「シベリア」問題ノ處理上最不得策ナリト思考ス而ノミナラズ我軍隊ノ鐵道守備任務ハ主トシテ外部ヨリ來ル鐵道ノ破壞又ハ妨害ヲ防禦スルニアリテ東清「ウスリー」線間ニ於ケル車輛分配ノ調節等ハ鐵道特別委員會又ハ技術部ノ主管事項ニシテ其ノ依頼アル場合ニ始メテ軍隊ガ威力ヲ以テ干涉スベキモノナリトノ見解ハ理論上正當ナルヤニ思考セラル今回ノ事件ハ先般發生シタル「ウスリー」線ニ於ケル「チタ」行貨車ノ抑留トハ稍々其ノ趣ヲ異ニスル如ク觀察セラル斯クノ如キ問題ガ前記ノ如キ大局ヨリ見テ面白カラザル時期ニ當地ニ於テ議論セラルルニ至ルコトハ甚ダ不利ナリト思考サルニ付至急軍憲ト御協議ノ上右干涉ヲ止ドメ若シ必要アリ

(在來ノモノト合セ八千挺余トナル)ヲ交付シタルガ右小銃ガ「アヌチノ」及烏蘇里攻撃ノ主力トナリタルヤモ計ラレス
五、「カ」軍ハ日本軍ノ後援アリ日本軍ハ重砲ヲ供給ス等ノ說ヲ流布シ士氣振興ニ利用シツツアリ
右内密ノ御含迄

七七八 十二月二十九日

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使在中國小幡公使
松島政務部長在浦潮永井政務部
長代理各宛(電報)

日本ノ西比利亞撤兵其他ノ問題ニ関シ在本邦
米國大使ニ對シ我政府ノ意向ヲ説明ノ件

合第四三一号

十二月二十六日在本邦米國大使本大臣ヲ來訪シ日本ハ可成速ニ西比利亞ヨリ撤兵ヲ欲スル旨是迄閣下ヨリ承リ自分モ斯ク信ジ本國政府ヘモ報告シ居タル処最近種々反對ノ報告ニ接シ困難ナル立場ニアリト述ベタルニ依リ本大臣ハ從來屢々明言シタル通り日本政府ハ誠実出來得ル限り速ニ撤兵セムト欲シ種々苦心シ居ル処大連會議モ先方ヨリ種々ノ要求ヲ提出スル等ノ事情ノ為進捗意ノ如クナラズ今直ニ撤兵

ルニ於テハ技術部又ハ特別委員會ニ對シ堂々論議サルコト然ルベシト思考ス

七七七 十二月二十四日

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

沿海州ニ於テ日本軍ガ白色軍ヲ援助シタルト
ノ非難ヲ生ズルニ至リタル事情通報ノ件

會議第二三四号

日本軍ガ沿海州ニ於テ白色軍ヲ援助シタルトノ非難ヲ生ズルニ至リタル事情ニ関シ當方取調ノ結果ニ依レバ
一、出先軍隊中ニハ白色軍ノ同情者多ク其ノ成功ヲ喜ブ風アリ

二、白軍烏蘇里駅占領當時日本軍ハ白軍ガ同駅ヨリ北方ニ進出シタル後(同駅以北ハ武裝解除地帶外ナリ)武裝解除ノ為メ部隊ヲ同地ニ派遣シ翌日直ニ帰還セシメタリ

三、白軍ノ北方進撃前後ニ於テ「カ」軍兵士(日本軍ハ「セ」「カ」軍ヲ避難民ト見テ之ガ移動ニ何等干与セズ)

ノ列車運行ノ折再三武裝又ハ武器密送ノ搜索検査ヲ行ヒタル由ナルガ嚴重ニ行ハズ寧ロ看過シタルカ如シ

四、十月半「ニコリスク」ニ於テ予備民警ニ六百挺ノ小銃

セバ居留民モ同時ニ引揚ゲザルヲ得ザルベク斯クテハ數十年間築キ上ゲタル彼等ノ經濟の基礎ヲ破壞スルコトナリ到底行ハレ難キ次第ナルガ何等妙案ニテモ有セラルヤト問ヒシニ大使ハ別ニ妙案ナシ左リ乍ラ日本ハ白色軍ニ武器ヲ供給シテ之ヲ援助シ浦潮ト齊多トノ二重政策ヲ行ヒツツ在リトノ報道種々ノ方面ヨリ來ル旨述ベタルヲ以テ本大臣ハ此種非難ハ從來共耳ニシタル所ニシテ「ハバロフスク」モ陷落シタルトノ報道アル此際一層此種非難ヲ試ムルモノアルベキモ日本ハ絶對ニ白軍ヲ援助セズ之ニ武器ヲ供給スル如キハ斷ジテ無シ我方調査ニ依レバ白軍ハ戰勝ニ連レ分捕武器及農民ヨリ供給スル武器ニテ次第ニ戰鬪力ヲ増加シ居ルト云フ尤一部邦人及出先軍人中ニハ或ハ撤兵反對ノ意見ヲ有スルモノ在ルヤモ計ラレザルモ此種意見ハ政府ノ方針ニハ全然何等ノ影響ナク政府ノ態度ハ從來ノ通り少シモ變ゼズ即チ露國人間ノ争ニハ嚴格ニ中立ヲ守リ西比利亞ノ政情安定シテ出來得ル限り速ニ撤兵セムコトヲ欲スルモノナリト答ヘタリ右米國大使ノ談ハ最近來京シタル在浦潮米國領事ノ報告ニ基クモノニ非ズヤト思ハル
(在米大使ヘハ)在歐各大使瑞典波蘭ヘ転電アリタシ

(浦潮へへ) 松村、杉野、郡司へ伝へラレタシ

附 米国軍艦機関長「ラングドン」射撃事件

七七九 一月十日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮碇泊中ノ米艦機関長ラングドン大尉我衛
兵ノ誰何ニ対シ拳銃ヲ発射セルニ付衛兵之ニ
応射シタル件

第五号

(一月十一日接受)

一月八日午前四時二十分当地第十一師団司令部前ヲ通行セ
ル一名ノ外人ガ懷中電灯ヲ以テ道途ヲ照シナガラ司令部ノ
建物及衛兵ノ方面ヲ照シ其挙動不審ノ廉アリタルニ依リ衛
兵ハ露語ヲ以テ是ニ停止ヲ命ジ尙是ヲ誰何シテ米人ナリヤ
露人ナリヤト尋ネタルニ彼ハ對抗ノ姿勢ヲ執リ我衛兵ハ是
ニ対シテ防禦ノ態度ニ出ヅルヤ否ヤ彼ヨリ先ヅ拳銃ヲ発射
シ来リ我衛兵是ニ応射シタルニ彼ハ二三歩左方ニ蹣跚メキ
更ニ二三発発射シタル後暗中何辺ヘカ姿ヲ晦シタリ其後右
外人ハ当地停泊米国軍艦「アルバニー」号乗組機関長ナル

レズト懸念セラルルニ付帝国政府ハ可成迅速ニ地方的ニ之
ヲ解決スル方針ヲ以テ軍司令部ヲシテ米国側ニ対シ力メテ
鄭重ナル態度ヲ持シ事件ヲ公平ニ審理セシムルコトトシ早
速軍司令官ヲシテ「アルバニー」艦長ニ弔辞ヲ述ベシムル
ト同時ニ陸軍大臣ヨリモ同艦長ニ弔意ヲ表シ当該衛兵ハ直
ニ軍法會議ニ附スルコトナリタルニ付右様御含アリ度ク
尙本件発表方ニ付テハ陸軍省ト打合ノ上此際直ニ我方ノミ
ノ報告又ハ意見ノ公表ヲ為ストキハ司令部ト米艦トノ交渉
ニ支障ヲ生スルコトアルヘキヲ顧慮シ差控ヘアル次第ニ付
貴方ニ於テモ右ノ趣旨御含ミノ上慎重措置アリ度尙本件ニ
関スル貴地交渉ノ經過並ニ各方面就中米人側ノ言説感情等
隨時電報アリタシ

七八一 一月十二日 内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛(電報)

ラングドン事件ニ関スル我方ノ措置通報並適
当ト認メラルル場合ニハ米国政府ニ弔意申入
方訓令ノ件

第一号

往電第一〇号ニ関シ

一七 「シベリア」出兵関係一件 七八一 七八二

コト判明シタルニ依リ我軍ヨリハ參謀長米軍艦ヲ訪問シテ
遺憾ノ意ヲ表シ本官ハ当地米国領事ヲ訪問シテ不取敢遺憾
ノ意ヲ表シ置キタリ右機関長ハ逃走後通レテ艦内ニ入りタ
ルガ肺部ニ背後ヘノ貫通銃創アリ艦内ニテ治療最初ハ生命
ヲ取留ム可シトノコトナリシガ九日午後二時ニ至リ遂ニ絶
命シタリ機関長ノ拳銃ハ逃走ノ現場ニ遺棄シアリテ吾ニ於
テ是ヲ押収シ尙我衛兵ノ帯皮ニハ拳銃ノ貫通彈痕歴然タル
モノアルヲ以テ先方ニ於テ機関長発射ノ事實ハ是ヲ否認セ
ザルモ発射ノ前後ニ付テハ彼我ノ主張一致セズ彼ハ我衛兵
ヨリ先ヅ発射シタリト主張シ居レリ米艦長ハ本事件發生ス
ルヤ直ニ部下一同ヲ戒飭シテ報復等ノ挙ニ出ヅルコトナカ
ラシメ居ルニ依リ目下ノ処何等不穩ノ模様ナシ右不取敢

七八〇 一月十二日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮菊池政務部長宛(電報)

ラングドン事件ニ関スル我方ノ執リタル措置
ニ付通報ノ件

第二号

貴電第五号ニ関シ本件ハ目下日米兩國国民ノ感情稍々高マリ
居ル際措置宜敷ヲ得ザレバ意外ノ結果ヲ惹起スルヤモ計ラ

本件ハ目下日米兩國国民ノ感情稍々高マリ居ル際措置宜敷ヲ
得ザレバ意外ノ結果ヲ惹起スルヤモ計ラレズト懸念セラルル
ニ付帝国政府ハ可成迅速ニ地方的ニ之ヲ解決スル方針ヲ以
テ出先軍憲ヲシテ米側ニ対シ力メテ鄭重ナル態度ヲ持シ事
件ヲ公平ニ審理セシムルコトトシ早速浦潮軍司令官ヲシテ
「アルバニー」艦長ニ対シ鄭重ナル弔辞ヲ述ベシムルト同
時ニ陸軍大臣ヨリモ同艦長ニ対シ弔意ヲ表シ当該衛兵ハ直
ニ軍法會議ニ附セシムルコトナレリ
右ノ通り事件ノ真相ハ目下調査中ニ属シ責任ノ何レニ在ル
ヤハ未ダ判明セザルモ兎モ角米国將校ノ落命ハ実ニ悲ムベ
キ一大不幸事ニ付貴地ニ於ケル本件ノ反響ヲ參酌シ此際不
取敢帝国政府ヨリ米国政府ニ対シ弔意申入ルル方適當ト認
メラルルニ於テハ右様取計ハレ差支ナシ
右参考トシテ在歐各大使ヘ転電アリタシ

註 内田外務大臣一月十二日發幣原大使宛電報第一〇号ハ前掲在
浦潮菊池政務部長來電第五号ヲ転電シタルモノナリ

七八二 一月十四日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮菊池政務部長宛(電報)